

4. 狩猟活動（ヒグマを除く）

4-3 大形動物

4-3-3 馬

馬が死んだら、肉のついた足の骨をもらってきて、肉をきれいに食べた後、エカシはその足の骨をトゥナ túna（火棚）にあげて干しておく。塩を入れて湯に骨を入れて煮て、そこにヒエを入れておかゆ（ピヤパサヨ piyapasayo）にした。これはおいしかった。馬の骨はおいしかった。油も出るし、いい出しがでる。

[貫気別 黒川セツ氏]

4-4 小動物

4-4-1 キネズミ（エゾリス）

キネズミはとってきてでもイナウコレ inawkore（木幣を持たせる）しない。丸焼きにして食べた。

[貫気別 黒川セツ氏]

4-4-4 ムジナ（エゾタヌキ）

タヌキは、獲ってきたら、クマより偉いものだからクマ以上にお祭りしなければならない、送らなければならないという。タヌキの肉は、クマやシカのものとは違って軽くて食べ易い。

[貫気別 黒川セツ氏]

クマが神の国に帰るとき、ムジナ（タヌキ）の神がいつしょに行くというカムイユーカラ kamuy yúkar を聞いたことがあるが、ムジナは、クマ以上にちゃんと送らなければならないそうだ。私が17、8歳のころ私の父が穴にいるムジナを獲ったので遊びに来いと言われて行ったことがある。荷負本村のエカシに頼んで送ってもらった。クマ送りと同じように団子や魚を供えて家の中で送った。その家にはヌサ nusa（祭壇）はなかった。

[貫気別 黒川セツ氏]

4-4-6 キツネ

小さい時からエカシに山歩きに連れていってもらった。そこでキツネの送りを見た。ウパシチロンヌブ upascironnup（オコジョ）は、殺すものではないし、肉も食べてはいけない、と言われていた。

ウサギのワナ猟をしたのだが、そのワナ輪にキツネがかかることがある。間違っ

まった Kitsune は山に置かないで、背負って持ってきた。ハルコレ harukore（食べものを持たせる）して、イナウ inaw（木幣）を持たせた。「間違っ て撃ってしまったのだから、おまえの神のトノ tono「殿」の所へ行け」という。

[貫気別 黒川セツ氏]